平成19年度 出雲市地域新エネルギー・省エネルギービジョン策定等事業（省エネルギーに係るもの）

出雲市地域省エネルギービジョン

〔概要版〕

神話の国で省エネライフ

～スローライフを目指し健康で安全な省エネルギーのまち～

平成20年（2008）2月

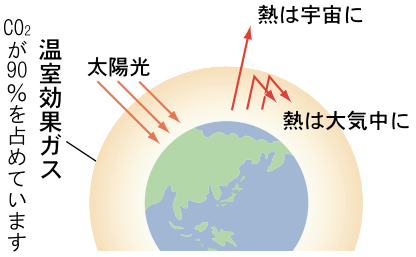
島根県出雲市

ビジョン策定の背景・目的

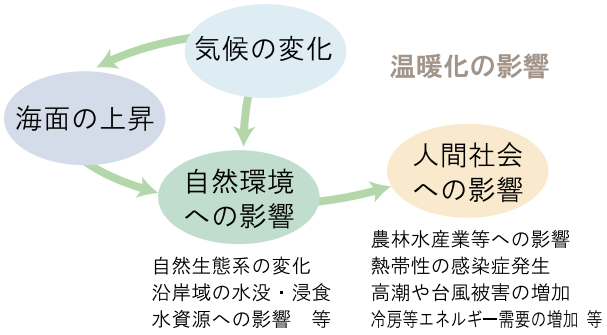
進む地球温暖化

私たちは電気やガスなど大量のエネルギーを消費しながら現在の豊かな暮らしを実現しています。しかし、その大半は石油や石炭などの化石燃料を燃焼することによって得られるため、燃焼時に発生する二酸化炭素(CO_2)等の温室効果ガスが増加し、「地球温暖化」が進んでいます。

既に地球温暖化の影響と見られる現象が世界各地で起きており、海氷面積の減少や山岳氷河の後退、干ばつ、洪水、熱波、台風等の頻度・程度が増大するなどの現象が現れています。



温室効果ガスが増えすぎると、宇宙に放出するはずの熱が大気中に封じ込められ、地表の温度が上昇します。この現象が「地球温暖化」です。



降雨不足により干上がる沼
（写真提供：緑のサヘル）

キリバス共和国・満潮時に浸水する住宅
（写真提供：Masaaki Nakajima）

全国地球温暖化防止活動推進センターHPより(http://www.jccca.org/)

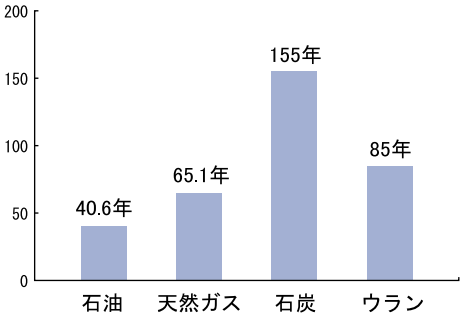
最悪の場合、2100年には…	
平均気温は約4.0℃(2.4～6.4℃)上昇 平均海面水位は26～59cm上昇	島根県では海面が1m上昇した場合、県内の砂浜の約85%が水没し、ほぼ100%浸食を受けると予測されています。また、海面上昇によって宍道湖・中海に海水の侵入が進めば塩分濃度が高まり、生態系が大きく変わると言われています。

出典：気候変動に関する政府間パネル第4次報告書、島根県地球温暖化対策推進計画

エネルギー問題

石油や石炭などの化石燃料は限りある資源であり、今のペースで消費を続けると、石油の供給可能量(可採年数)は40.6年、天然ガスは65.1年と見込まれています。しかし今後、世界のエネルギー需要は増加し、2030年の世界のエネルギー消費量は2004年の1.5倍に達する見込みです。

■エネルギー資源可採年数



出典：エネルギー庁「日本のエネルギー2007」、BP統計2006(石油、天然ガス、石炭：2005年)、OECD/NEA-IAEA URANIUM2005(ウラン2005年)、全国地球温暖化防止活動推進センター

限りある資源を有効に利用し、環境への負荷を低減するための取り組みのひとつとして「省エネルギー」を推進することが求められています。

深刻化する地球温暖化に対応していくためには、地球規模での環境問題を考え、この出雲市の環境を守り・創造しながら日々の生活を営んでいく必要があり、市民一人ひとりが問題意識を持ち、省エネルギーを身近なこととして取り組むことが求められます。

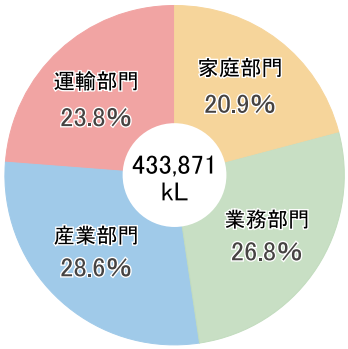
本ビジョンは、市民・事業者・市が協働して省エネルギー対策や地球温暖化対策などに係る取り組みを推進するための具体的な行動指針として策定しました。

出雲市のエネルギー特性

原油に換算すると
市全体で年間約43万4千kLのエネルギーを消費しています

部門別にみると、産業部門が全体の約29%を占め最も多く、次いで業務部門、運輸部門、家庭部門の順になっています。

■市全体のエネルギー消費量(2006年度)

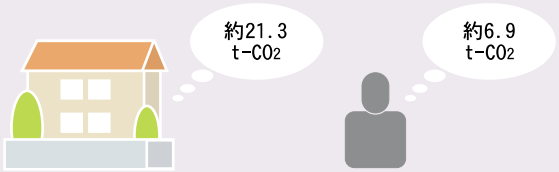


家庭部門をみると、年間で1世帯あたりドラム缶約10本分(約1,890L)、1人あたり約3本分(616L)消費していることになります。

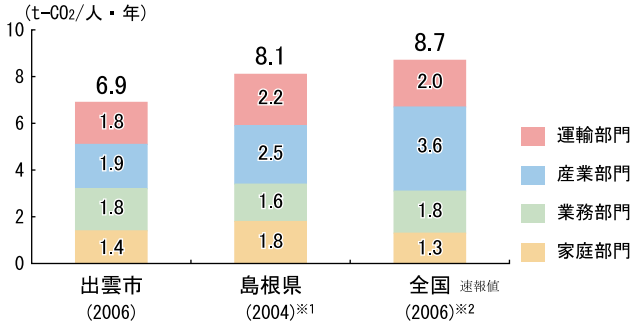
部門について：家庭で消費されているエネルギーは「家庭部門」、公共施設や事務所等は「業務部門」、農業・漁業・製造業等は「産業部門」、自動車(市内で保有されている全ての自動車)は「運輸部門」として整理。

エネルギー消費により
市全体で年間約102万トンの二酸化炭素を排出しています

年間で1世帯あたり約21.3トン、1人あたり約6.9tトン排出していることになります。



■1人あたり二酸化炭素排出量(県・国との比較)

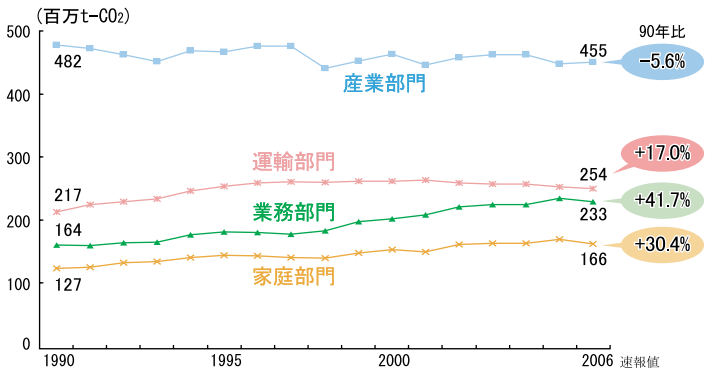


出典：※1「島根県環境政策課資料」
※2「2006年度の温室効果ガス排出量速報値(環境省)」

京都議定書基準年(1990)と比較すると
二酸化炭素排出量は市全体で16.8%増加しています

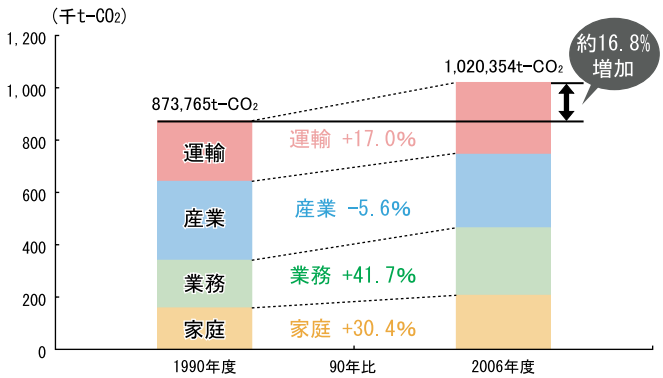
1990年度と2006年度の日本のCO_2排出量を比較すると、家庭部門は＋30.4%、業務部門は＋41.7%、産業部門は−5.6%、運輸部門は＋17.0%となっています。この増減比をあてはめ、1990年度の本市のCO_2排出量を推計すると、2006年度には全体で16.8%増加しているという結果が得られました。

■日本の二酸化炭素排出量推移



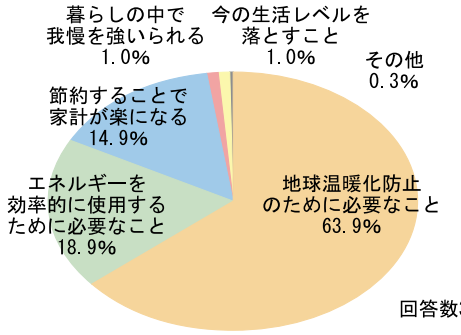
出典：2006年度の温室効果ガス排出量速報値（環境省）

■本市の二酸化炭素排出量



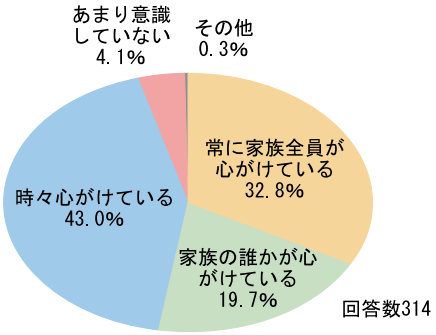
省エネルギーに対する市民意識（意識調査より）

省エネに対するイメージ



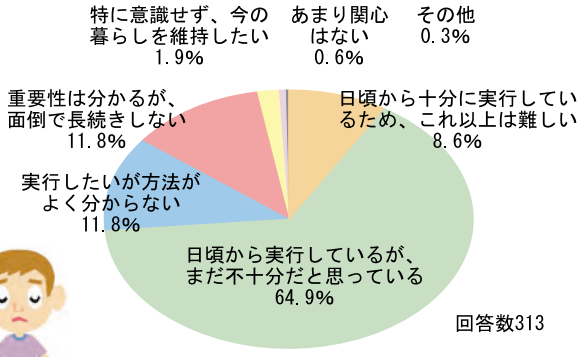
地球温暖化防止や省エネに対して前向きなイメージが多いです。

日頃の省エネ行動・意識



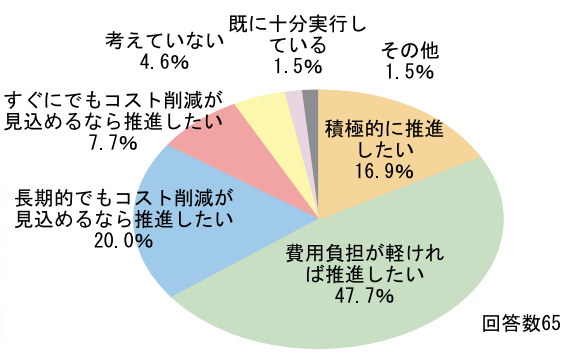
省エネを「時々心がけている」人が最も多いです。

今後の省エネ対策について



「まだ不十分」と思っている人が多いです。

事業所における今後の省エネ対策について

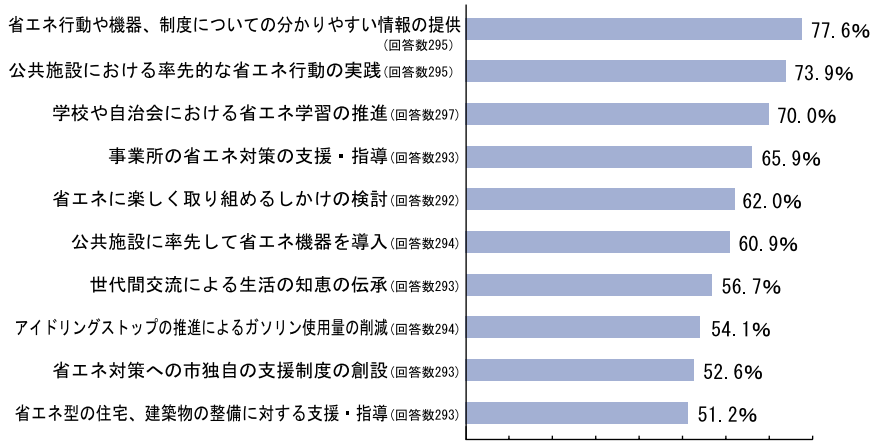


事業所では、費用の面が課題となっています。

省エネを進めるために必要な取り組み

※「重要であり具体化すべき」と回答した割合（50%以上の取り組みを抜粋）

分かりやすい情報提供や公共施設での取り組み率先、省エネ対策の支援・指導などが求められています。



意識調査からみた今後の主な課題

課題１　省エネルギーに対する市民意識の向上が必要

省エネの実践は個々の心がけにまかせていることが多く、市民一人ひとりが問題意識を持つことが省エネ推進の第一歩と考えます。そのため、市民意識を高めることが重要な課題となります。

課題２　「意識」を「行動」へつなげるための取り組みが必要

温暖化対策の必要性は多くの方が理解していると考えられますが、温暖化防止に向けた取り組みが十分実践されているとは言えません。そのため「意識」をいかに「行動」につなげるかが課題となります。

省エネルギービジョンアクションプラン

目標年度

2006年度を基準年度とし、**2016年度を目標年度**として3年ごとに見直しを行い、必要に応じて改訂するものとします。

目標数値

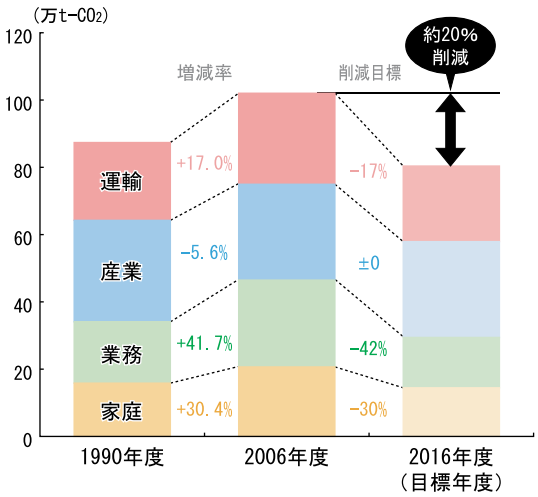
全体で2006年度比　約20%削減（1990年度と同じ水準に抑制（産業部門を除く））

地球温暖化防止に向けて、日本では温室効果ガス全体の排出量を2008年から2012年の平均値で1990年に比べ6%削減し、温室効果ガスの約9割を占めるエネルギー起源CO_2排出量は＋0.6%の水準に抑制することを目標としています。

2006年度、本市におけるエネルギー起源CO_2排出量は、1990年度と比べると16.8%上回っているという推計結果が得られました。

本市では、出雲市環境基本計画（本ビジョンの上位計画）に掲げる「21世紀環境先進都市の創造」に向けて、国の目標を上回る目標を設定し、「部門別エネルギー起源CO_2排出量を1990年度と同じ水準に抑制する（産業部門を除く）」ことを目標とします。

※エネルギー起源CO_2排出量：石油や石炭等の化石燃料の消費に伴って発生する二酸化炭素の量



基本方針

1. 地球を考え・学ぶ
【意識の向上】

地球温暖化を防ぐためには、環境に対する問題意識を持ち、行動することが重要です。

あらゆる世代が地球温暖化、すなわち地球について考え・学ぶ機会を創出し、環境意識の向上を図ります。

2. 省エネルギーを実践する
【省エネ実践】

省エネ等の必要性が理解されたとしても、実践されなければ効果が得られません。

省エネに取り組むきっかけ作りや実践指導を行ない、具体的な効果を公表しながら市民・事業者・市の省エネルギーを推進します。

3. 取り組みを継続・拡大する
【取り組みの継続・拡大】

取り組みは、継続していくことが大切です。また、効果を高めるためには、取り組みの輪を広げていくことが重要です。

取り組みを推進する組織を設立し、温暖化対策や省エネ行動など環境保全全般について取り組みの継続・拡大を図ります。

アクションプラン

基本方針に基づき、以下のアクションプランを設定します。

基本方針	アクションプラン
1. 地球を考え・学ぶ	環境学習推進プラン
	環境啓発イベント推進プラン
2. 省エネルギーを実践する	情報発信プラン
	環境マネジメントシステム普及促進プラン
	省エネ行動強化プラン
	省エネメリット還元プラン
	機器等の導入促進プラン
3. 取り組みを継続・拡大する	推進組織の設立プラン

環境学習推進プラン

①(仮称)いずも環境講座の開催

専門家や活動団体等と連携し、地球環境をはじめ、地球温暖化防止など、環境問題全般について学習する「(仮称)いずも環境講座」を開催します。

(仮称)いずも環境講座イメージ

②エコライフ・スローライフ体験学習等の推進

古民家利用に関する団体・個人等との協働により、電気やガス等を使わない生活や地産地消の食体験等を推進し、環境に優しい生活への転換を促します。

また、空き家・空き地の事情を把握し、スローライフ希望者の受け入れを呼びかけます。

③学校における省エネ学習の推進

子ども達の環境意識を高め、子どもの頃から省エネを身近なこととして取り組んでもらえるよう、各種支援を活用して省エネ学習を推進します。

省エネルギー教室((財)省エネルギーセンター)

④「こどもエコクラブ」の活動促進

自然観察やリサイクル活動等、身近にできる環境活動を行う「こどもエコクラブ」の活動を推進し、子ども達の環境学習を推進します。

こどもエコクラブ交流会

環境啓発イベント推進プラン

①イベント等での啓発

「くらしの中の環境フェア」など既存イベントを啓発の場と位置付け、市民・事業者と協働して、環境問題や省エネに関する情報提供等を行います。

くらしの中の環境フェア

②環境にやさしいイベント運営

イベントを開催する際には、マイバッグやマイ箸、簡易包装運動を指導し、ごみ分別を徹底するなど、環境にやさしいイベント運営に努めます。

③市民・事業者の環境啓発支援

市民や事業者が主体となって開催するイベントにおいて、展示パネルの貸出や啓発パンフレットなどの提供に努めます。

啓発グッズ例(パネル)

情報発信プラン

①具体的な省エネメニューの発信

省エネの必要性を理解し、実践してもらうため、エネルギーコストの削減効果等をアピールしながら、家庭や事業所における省エネメニュー(方法)、各種支援制度等を市のホームページや広報いずもなどを利用し発信します。

②市民・事業者・市の取り組み効果の公表

市内のエネルギー消費状況や市民・事業者・市の温暖化防止に向けた取り組み状況・効果を公表し、取り組み意欲の向上につなげます。

なお、エネルギー消費状況や温暖化防止に向けた取り組み状況はアンケートやヒアリング調査により把握します。

環境新聞えこ～つうしん(広報いずも)や(財)省エネルギーセンターのパンフ

環境マネジメントシステム普及促進プラン

①家庭版環境ISOの普及

出雲市では「家庭版環境ISO」を設け、無理なく・環境に優しい生活を継続できるための支援を行っています。「家庭版環境ISO」の普及を図り、省エネを実践する家庭を増やします。

②事業所における「ISO14001」や「エコアクション21」等の普及

国際規格である「ISO14001」やISOに比べ取得・更新費用が安価で中小企業にとって取り組みやすい「エコアクション21」の普及を図ります。また、市独自の「事業所版環境ISO」の創設を目指し、省エネなどの推進を図ります。

※ISO14001：国際標準化機構（ISO）が制定した国際規格のうち、環境マネジメントシステム（環境パフォーマンスの改善を実施する仕組みが継続的に改善されるシステム）を構築するために要求される規格です。
※エコアクション21：国際標準化機構のISO14001規格をベースとしつつ、中小事業者でも取組みやすい環境マネジメントシステムで、環境省が策定したガイドラインに基づく事業者のための認証・登録制度です。
（出典：財団法人地球環境戦略研究機関持続性センターHP）

エコアクション21
エコアクション21
ロゴマーク

③「学校版エコライフチャレンジしまね」の普及

市内の小中高等学校に「学校版エコライフチャレンジしまね」への参加を呼びかけます。また、参加促進に向けて、子ども達が楽しく取り組めるよう、省エネを実践することで節約できた光熱費の一部を子ども達の環境学習に役立てることができる仕組みを検討します。

学校版エコライフチャレンジしまね
（http://www.e-shimane.net/sci/index.php）

④市の環境マネジメントシステム等の運用

本庁舎等で認証取得した環境マネジメントシステムの維持継続や、市の事業活動から発生する温室効果ガス削減のために策定した「いずもエコオフィス・アクションプログラムⅡ」を確実に推進します。また、その成果を公表することで市民・事業者の温暖化対策やリサイクル等への関心を高めます。

省エネ行動強化プラン

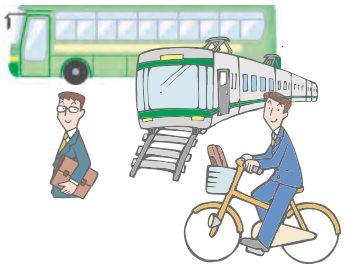
①緑のカーテンの普及

家庭において消費電力の最も多い機器はエアコンと言われており、冷暖房費を節約するためには断熱性・気密性を高める工夫が有効です。

夏の日射を避け、室内を涼しくする工夫として“つる性の植物”を植え「緑のカーテン」をつくることがあげられます。

夏場のエアコンの省エネを推進するため、つる性植物の種の配布などを行い「緑のカーテン」の普及を図ります。

②マイカー利用の自粛



本ビジョンの上位計画「出雲市環境基本計画」において、マイカー利用の自粛を市民・事業者・市の行動指針にあげています。

マイカー利用の自粛は、一人ひとりの心がけだけでは難しいこともあるため、市が主体となってマイカー利用の自粛を推進するための取り組みを推進します。

③ごみ減量化の推進

廃食用油回収タンク

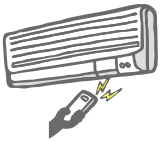
日常的に３Ｒ（発生抑制・再利用・再生利用）を推進し、省エネや地球温暖化対策はもとより、循環型社会の構築につなげます。

④市民運動の推進

市が率先して省エネを呼びかけ、市民運動としてみんなで省エネを推進する機会を創出します。

省エネ強化月間の設定

（冬季：1月・2月、夏季：7月・8月）
市のホームページやケーブルテレビ等を活用し、特定の省エネルギー行動（例：エアコンの温度設定を冬季は20℃、夏季は28℃等）をみんなで実践することを呼びかけます。



ノーマイカーデーの設定

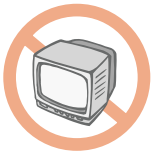
ノーマイカーデーを設定し、マイカー通勤の自粛を推進します。

エコドライブキャンペーンの実施

ガソリンスタンドなどとの連携により、タイヤの空気圧測定と補充を実施するエコドライブキャンペーンを実施します。

ノーテレビデーの設定

教育委員会、市内の幼稚園および小中学校との連携により、ノーテレビデーを設定します。このことは、省エネはもちろん、家族のふれあい時間、早寝早起き、朝食摂食等の生活リズムの向上にもつながります。

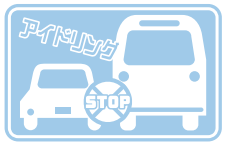


マイバッグキャンペーンの実施

スーパー等との連携により、マイバッグの利用促進を図るマイバッグキャンペーンを実施します。

アイドリングストップの推進

観光地の駐車場やバス・タクシー乗り場などを中心に、施設管理者等と連携し、アイドリングストップを実践してもらうよう呼びかけます。



ライトダウンキャンペーン（一斉消灯）

一斉消灯の日を設定し、1時間（2時間）程度、ライトアップ施設や一般家庭などで電気を消します。家庭ではロウソクでの生活にチャレンジするなど、手軽にできるスローライフ体験を呼びかけます。

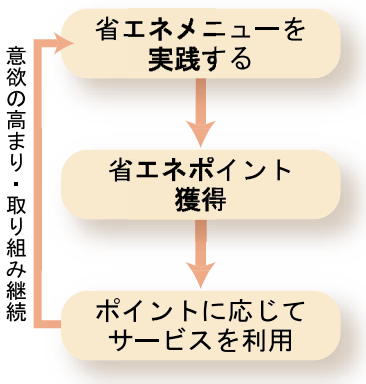
省エネメリット還元プラン

①省エネポイント制度の創設

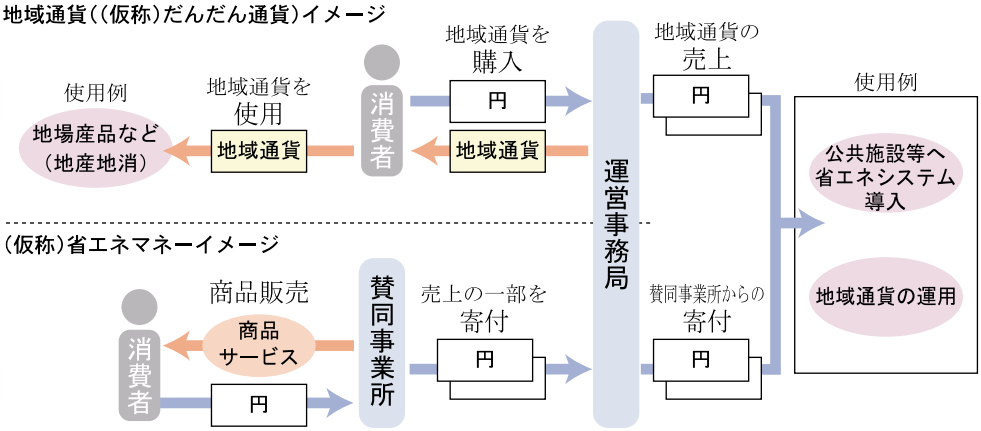
省エネ実践状況などに応じて「省エネポイント」を発行し、そのポイントを使って市独自のサービスを受けられる制度の創設を目指します。

また、将来的には地産地消の推進を図るため、農業生産者や漁業関係者、地場産業関係者等との連携を図り、地域通貨（（仮称）だんだん通貨）の導入の可能性を検討します。

省エネポイントのイメージ



地域通貨（（仮称）だんだん通貨）イメージ



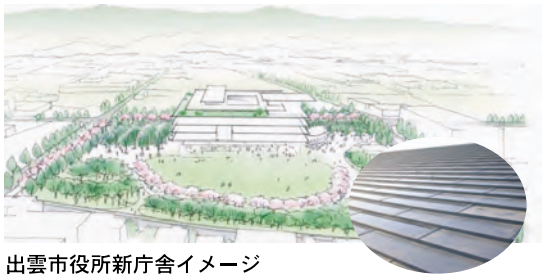
※省エネマネーとは賛同事業所からの寄付金の仮称

機器等の導入促進プラン

①公共施設への積極的導入

市が所有する公共施設において、ESCO事業の可能性を検討するとともに、機器の更新や新たに施設を建設する際、省エネ機器・新エネ機器の積極的な導入を検討します。

※ESCO(エスコ)事業：エナジー・サービス・カンパニー（Energy Service Company）の略であり、ESCO事業者が顧客の従前の利便性を損なうことなく省エネルギーに関する包括的なサービスを提供し、顧客の省エネルギーメリットの一部から報酬を得る事業です。



出雲市役所新庁舎イメージ

太陽光発電の導入(予定)

②事業所における省エネルギー診断の推進

市のホームページや環境新聞「えこ～つうしん(広報いずも)」などを活用し、業界団体等に省エネルギー診断を呼びかけ、事業所の省エネルギーを推進します。

③家庭・事業所における機器等の導入促進

機器の買い替えや新たに購入する際、建物のリフォームを行う際など、積極的に省エネルギーを進めてもらえるよう、市と機器等の販売事業者が連携し、省エネ機器・新エネ機器等のＰＲを行います。

④省エネ機器・新エネ機器の導入支援の検討

省エネ機器・新エネ機器の普及促進を図るためには、費用負担の軽減が求められています。市民、事業者の費用負担を軽減し、積極的に省エネや新エネ機器が導入されるよう支援制度の創設を検討します。

推進組織の設立プラン

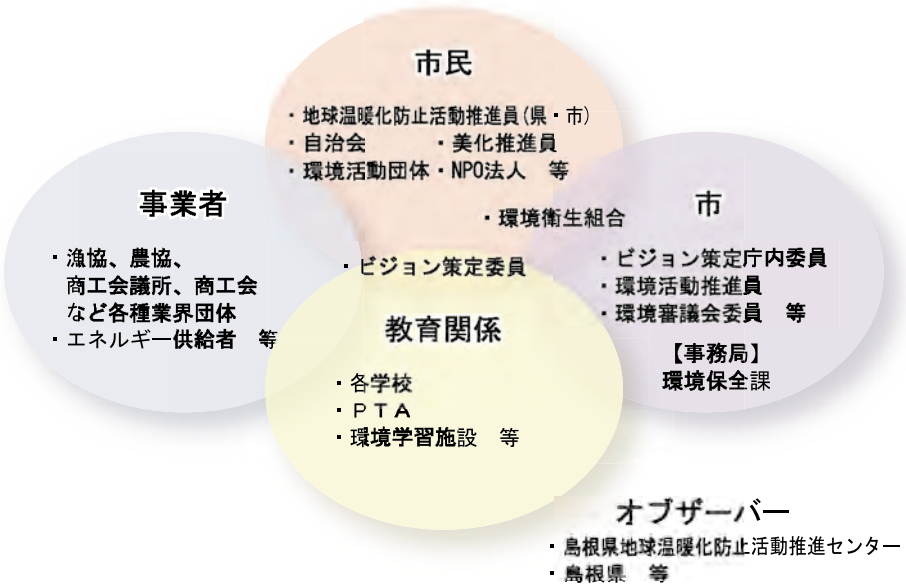
①(仮称)出雲市環境保全推進協議会の設立

市民・事業者・市の協働により、本ビジョンをはじめ、環境保全に関わる施策を推進する組織(以下協議会)を設立します。

協議会は、本ビジョン策定委員会や庁内委員会の委員が中心となり、市民、事業者、教育関係者等で組織します。なお、設立当初は市が牽引することとなりますが、将来的には市民・事業者が主体となって活動が展開されるようパートナーシップの構築を図ります。

また、この協議会は「地球温暖化対策の推進に関する法律」の規定に基づき、日常生活に関する温室効果ガスの排出の抑制等に関し、必要となるべき措置について協議し、具体的に対策を実践する「地球温暖化対策地域協議会」として登録申請を行います。

(仮称)出雲市環境保全推進協議会



協議会の役割

①本ビジョン及び出雲市環境基本計画に基づく率先行動の実施
②環境保全施策の結果の検証及び提案（進行管理）
③環境関連研修会への参加及び企画
④所属団体や居住地域において環境保全施策を牽引するリーダー
⑤全市全体に取り組みの輪を拡大する啓発活動

ビジョンの推進に向けて

キャッチフレーズ

神話の国で省エネライフ

～スローライフを目指し健康で安全な省エネルギーのまち～

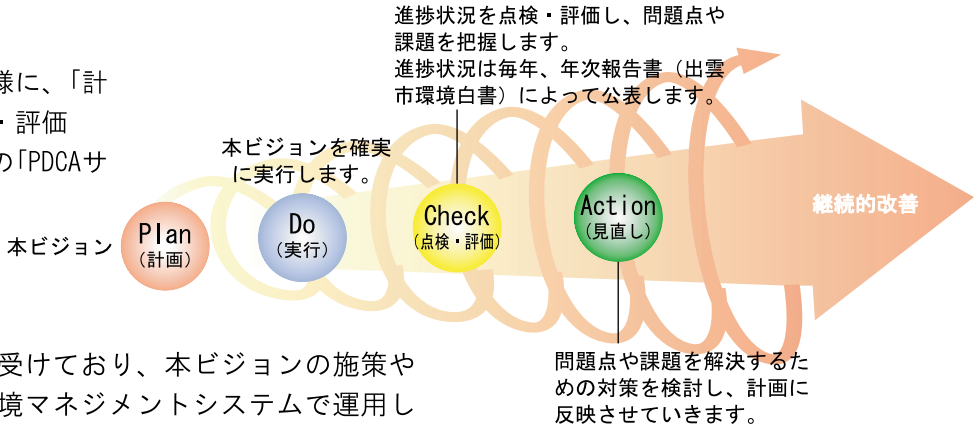
「車の利用を控えて徒歩や自転車を利用する」「地産地消」など、省エネに向けた取り組みの多くは、地球にやさしいだけでなく、スローライフの実現につながります。

そこで、「省エネライフ」と「スローライフ」を一体のものと考え、省エネライフで健康で安全な暮らしを提案し、省エネルギーのまちを目指すこととします。

進行管理

進行管理の流れ

出雲市環境基本計画と同様に、「計画(Plan)」「実行(Do)」「点検・評価(Check)」「見直し(Action)」の「PDCAサイクル」を用いて行います。



市の取り組みの進行管理

本市はISO14001の認証を受けており、本ビジョンの施策や数値目標の管理は、市の環境マネジメントシステムで運用していきます。

市民・事業者の取り組みの進行管理

先述した「(仮称)出雲市環境保全推進協議会」において、年度ごとに市民・事業者の取り組み状況を把握し、進行管理を行います。

総合的な進行管理

出雲市環境審議会は、本ビジョンの上位計画「出雲市環境基本計画」の進捗状況をまとめた年次報告書(出雲市環境白書)により、計画の総合的な推進について点検・評価を行い、それに基づいた施策見直しなどの提言やアイデアの提供を行います。

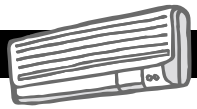
点検・評価項目

項目１	二酸化炭素排出量	CO_2排出量により、目標達成状況を点検・評価します。
項目２	市民・事業者・市の取り組み状況	定量的に把握できる取り組みについて、点検・評価します。

取り組み状況点検・評価項目例

(仮称)いずも環境学習講座受講者数、省エネ学習実践校数、こどもエコクラブ登録団体数、環境啓発イベント参加者数、啓発グッズ貸出件数、環境新聞の発刊回数、環境マネジメントシステム登録・取得数、つる性植物の種配布数、ノーマイカー通勤率(3km未満市職員)、マイカー通勤自粛推進事業所数、廃棄物排出量・削減率、廃棄物再資源化量・リサイクル率、廃食用油回収量、生ごみ処理機器購入補助数、リサイクル団体回収補助登録団体数、省エネポイント発行数、公共施設への省エネ機器導入件数、新エネ導入市有施設数、風力発電施設の発電量、省エネ診断の(専門家)派遣数、省エネ型製品普及推進優良店数

二酸化炭素20%削減に向けて　はじめよう 省エネライフ



夏の冷房時の室温は28℃を目安にする

年間で　約670円の節約　CO_2削減量 16.8kg

冷房設定温度を27℃から28℃にした場合。

冷房は必要な時だけつける

年間で　約410円の節約　CO_2削減量 10.4kg

1日1時間短縮した場合。

冬の暖房時の室温は20℃を目安にする

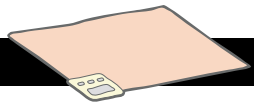
年間で　約1,170円の節約　CO_2削減量 29.5kg

暖房設定温度を21℃から20℃にした場合。

暖房は必要な時だけつける

年間で　約900円の節約　CO_2削減量 22.6kg

1日1時間短縮した場合。



部屋の広さにあった大きさにする

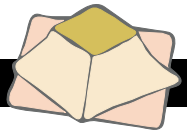
年間で　約1,980円の節約　CO_2削減量 49.9kg

3畳用と2畳用のカーペットの比較。

設定温度を低めにする

年間で　約4,090円の節約　CO_2削減量 103.2kg

3畳用で「強」から「中」にした場合。



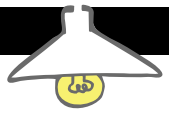
こたつ布団に上掛けと敷布団をあわせて使う

年間で　約710円の節約　CO_2削減量 18.0kg

設定温度を低めにする

年間で　約1,080円の節約　CO_2削減量 27.2kg

「強」から「中」にした場合。



点灯時間を短くする

●白熱電球の場合

年間で　約430円の節約　CO_2削減量 10.9kg

●蛍光ランプの場合

年間で　約100円の節約　CO_2削減量 2.4kg

1日1時間短縮した場合。

見ない時は消す

年間で　約700円の節約　CO_2削減量 17.7kg

1日1時間見る時間を減らした場合(ブラウン管)。

ものを詰め込みすぎない

年間で　約960円の節約　CO_2削減量 24.3kg

設定温度を適切にする

年間で　約1,360円の節約　CO_2削減量 34.3kg

周囲温度15℃で、設定温度を「強」から「中」にした場合。

壁から適切な間隔で設置する

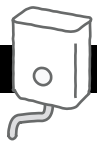
年間で　約990円の節約　CO_2削減量 25.0kg

無駄な開閉はしない

年間で　約230円の節約　CO_2削減量 5.8kg

開けている時間を短くする

年間で　約130円の節約　CO_2削減量 3.4kg



食器を洗う時は低温に設定する

年間で　約1,300円の節約　CO_2削減量 20.5kg

野菜の下ごしらえに電子レンジを活用する

年間で　約920円の節約　CO_2削減量 9.9kg

根菜(ジャガイモ、里芋)の場合

長時間使わない時はプラグを抜く

年間で　約2,360円の節約　CO_2削減量 59.6kg

洗濯機の容量に合わせてまとめ洗いをする

年間で　約3,950円の節約　CO_2削減量 3.3kg

二酸化炭素量1kgとは
サッカーボール100個分の体積に相当します

出典：家庭の省エネ大事典((財)省エネルギーセンター)

１１．風呂給湯器

間隔をあけずに入るようにする

年間で　約5,650円の節約　CO_2削減量　88.9kg

ガスの場合。

シャワーは不必要に流したままにしない

年間で　約2,890円の節約　CO_2削減量　29.7kg

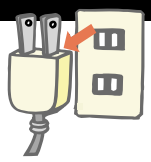
ガスの場合。

使わない時はフタを閉める

年間で　約770円の節約　CO_2削減量　19.4kg

便座暖房の温度は低めにする

年間で　約580円の節約　CO_2削減量　14.7kg



電気製品は、使わない時はコンセントをプラグから抜き、待機時消費電力を少なくする

年間で　約3,300円の節約　CO_2削減量　83.3kg

１４．自動車

ふんわりアクセル「eスタート」を実践する

年間で　約10,700円の節約　CO_2削減量　194.0kg

発進時、5秒間の省エネ意識。5秒間で20km/h程度に加速。

加減速の少ない運転をする

年間で　約3,750円の節約　CO_2削減量　68.0kg

早めのアクセルオフ

年間で　約2,320円の節約　CO_2削減量　42.0kg

アイドリングストップ

年間で　約2,220円の節約　CO_2削減量　40.2kg

１～１４の取り組みをみんなで実践すると市内のCO_2排出量は・・・

市全体のCO_2を約1.6%削減できます

出典：家庭の省エネ大事典((財)省エネルギーセンター)

省エネ性能の高い機器を選び、省エネ効果を高めよう

省エネラベリング制度

省エネ性能の高い機器を選ぶ時、目安となるのが「省エネラベル」です。

エアコン、ＴＶ、冷蔵庫、蛍光灯器具、ガス調理機器など16品目を対象(2007年2月現在)に、その機器が、国の定める目標をどの程度達成しているか、その達成度合いが表示されています。

省エネ基準を達成した製品には緑色、達成していない製品には橙色の省エネ性マークが表示されています。また、エアコン、冷蔵庫、ＴＶには統一省エネラベルが表示されています。

表示例(省エネ基準を達成しているラベル)

統一省エネラベル

●エアコン(11～17畳、冷房能力4.0kW)の例

A製品

省エネ基準達成率　１００%
年間電気代　２９,４００円
本体価格　１３４,４００円

B製品

省エネ基準達成率　７０%
年間電気代　４１,４００円
本体価格　８０,０００円

本体価格はA製品が高くても、トータルコストは５年目で逆転

12年間使用の場合
約９万円もおトク

	５年	８年	１２年
A製品	２８１,４００円	３６９,６００円	４８７,２００円
B製品	２８７,０００円	４１１,２００円	５７６,８００円
差　額 A製品のお得額	5,６００円	４１,６００円	８９,６００円

参考：年間電気代はカタログの期間消費電力量から試算した目安料金
製品の本体価格は2006年8月の市販価格データより
出典：家庭の省エネ大事典、おトク読本((財)省エネルギーセンター)

●発行年月／平成20年(2008)2月
●発　　行／島根県出雲市(環境事業部環境保全課)
〒693-8530　島根県出雲市今市町109-1　TEL.0853-21-6535　FAX.0853-21-6597
URL.http://www.city.izumo.shimane.jp/index.html
E-mail.kankyou-hozen@city.izumo.shimane.jp

本調査は、独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構の平成19年度「地域新エネルギー・省エネルギービジョン策定等事業」の補助金により実施しました